2016年５月 発行

同窓会たより

千葉大学看護学部・
看護学研究科同窓会
〒260-8672 千葉市中央区亥鼻1-8-1 TEL 043-222-7171
ホームページ http://www.n.chiba-u.jp/dousoukai/index.html

ご 挨 拶

同窓会会長 岡 田 忍（３期）

３月に入ってから気温の低い日が続いたせいか、ちらほらと咲いてからなかなか開花が進まなかった亥鼻の桜でしたが、ようやく五分から七分咲きとなり、千葉城のまわりではお花見を楽しむ人も増えてまいりました。病院へ続く連絡道路が「桜のトンネル」になる日ももうすぐだと思われます。同窓生の皆様の住まいや職場の近くの桜はどのような状況でしょうか？同窓会には、この４月から38期生が新しく加わりました。

あいさつでもお伝えしたように、昨年は看護学部創立40周年に当たり、同窓会では記念集会の開催と記念誌の発行を行いました。記念集会では様々な場で活躍されている同窓生をシンポジストに迎えて、看護学部卒業後の自分の歩みをご紹介いただきましたが、着々とキャリアを積まれてきたと思っていたシンポジストの方々が、実は様々な紆余曲折を経て現在に至っていること、また決して現在の自分に満足せず、さらに高いところを目指していることを知り、改めて看護学部卒業生の「底力」を感じました。記念集会には懐かしい先生方や同窓生も遠方からご参加くださり、この機会を利用して同期会や、1期から男性の同窓生を集めた女子会ならぬ「男子会」も開催されたとうかがっています。また、記念誌には様々な期の同窓生の皆様からメッセージをお寄せいただきました。40周年に関する様々な活動が、母校と同窓生、同窓生どうしをつなぐきっかけになったことを実感いたしました。さらに、当時準会員であった38期生も、記念集会に指定発言者や実行委員として参加し、記念誌にもメッセージを書いてくれました。このところ活動方針にあげていた「準会員と同窓会のつながりの強化」が少しずつ眼に見えるかたちになってきたのかなと大変うれしく思いました。40周年の同窓会事業にご協力いただきました全ての方々にこの場をお借りして御礼申し上げます。

最後に例年のこととなりますが、個人票の返送についてお願いしたいと思います。特に今年度は名簿の発行年に当たりますので、必ずご返送くださいますようよろしくお願いいたします。今まで会員の皆様からご返送いただいた個人票のデータは、看護学部の40年の歴史の一部であり、看護学部の今までの、そしてこれからの歴史は卒業生一人一人の歴史があって初めて成り立つものです。皆さんも看護学部の歴史を紡ぐ者であることを是非心にとめていただき、個人票の返送にご協力ください。

平成28年度の活動方針としましては、同窓会活動のより一層の発展に向け、以下の3つを提案します。

① 準会員が同窓会事業に参加する機会を増加させることによって、同窓会とのつながりを強化する。特に今年度は平成25年度より実施している準会員（学部生）に対する学術集会参加費助成への応募者の増加を目指す。
② 名簿発行年にあたることから、会員からの個人票の返送を促し、会員データを最新のものに更新する。
③ 会員の声が同窓会活動に反映されるよう、評議員会、総会の出席を促す。

ご 挨 拶

看護学部長・看護学研究科長 宮 﨑 美砂子

４月に入り、看護学部は中庭の桜が満開となり、一年で一番美しい季節を迎えています。皆さま、お元気でお過ごしのことと思います。千葉大学看護学部の卒業生は、この３月で3,225名となり、大学院看護学研究科の修了生は1,002名（前期課程731名、後期課程166名、修士課程（看護システム管理学専攻）105名）となりました。様々な場での卒業生・修了生の皆さまの活躍を大変うれしく感じております。

さて昨年度は、２つの大きな行事がございました。１つは看護学部創立40周年で、これには同窓会が主体となり、看護学部は後方支援のかたちで、９月に記念誌発行及び卒業生集会を行いました。短期の準備期間であったにもかかわらず、同窓会の皆さまの団結力と行動力に改めまして感服したところです。もう１つは第19回東アジア看護学研究者フォーラム（19th East Asian Forum of Nursing Scholars ; EAFONS）で、日本看護系大学協議会主催の下、千葉大学が企画運営実施の主体となり、本年３月14日～ 15日に幕張メッセ国際会議場にて行いました。東アジアをはじめとする12か国から1,002名の大学院生を含む看護学研究者が参集し、研究発表及び交流を活発に行うことができました。本学からも多くの大学院生及び修了生が英語による口演及びポスター発表を行い、海外の研究者と臆せず討議している姿は誇らしく、この数年間、国際発信力の強化に対して組織を挙げて取組んできたことの成果の一端を垣間見た気がしております。EAFONS実施にあたりまして、同窓会からご寄付をいただきましたこと、改めましてこの場をお借りしてお礼申し上げます。

さて千葉大学は、平成28年度から33年度までの６年間、国立大学法人として第3期の中期目標期間に入ります。この第3期中期目標期間においては、機能強化の方向性に応じて国からの運営費交付金が重点配分される仕組みが新たに導入されたところであり、千葉大学は、「卓越した成果を創出している海外大学と伍して、全学的に世界で卓越した教育研究、社会実装を推進する取組を第３期の機能強化の中核とする国立大学」という枠組みを選択した大学（16大学）のなかの１大学として位置づくことになります。また、看護学部創設以来、新学部の設置がこれまでなかった千葉大学において、平成28年４月に国際教養学部が創設されたことも、本学がグローバルに機能強化を進めようとしていることの表れと言えます。

本学部・研究科におきましては、平成29年４月からの学部教育及び大学院（看護学専攻）教育のカリキュラム改革に向けて、検討を進めています。改革のキーワードは、研究力、連携力、国際力の強化です。本学部・研究科のミッションであるところの「わが国の看護学をグローバルに牽引する教育研究の先進的取組と人材育成」をより一層意識しながら、教育研究の質の充実と国際社会への発信力の強化に取り組み、千葉大学看護学部・看護学研究科の存在価値を国内外に高めて参りたいと思います。

今後も、同窓会と緊密な連携をもたせていただきながら、ホームページや、各種ご案内等により、情報発信に努めてまいります。引き続き、ご支援をよろしくお願い致します。

平成27年度 総会報告

平成27年６月20日（土）10時00分から、看護学研究科第１講義室にて同窓会総会を開催しました。総会では、岡田会長の挨拶の後、総務委員会から平成26年度の入会状況と学部生（準会員）への学術集会参加費助成状況、たより委員会から平成27年５月にたよりを発行したこと、広報渉外委員会から平成26年度同窓会企画「千葉大保助看法を読み解くー千葉大出身３職種のキャリア形成ー」の開催、卒業生及び修了生への記念品贈呈等が報告されました。また、平成26年度の会計監査について報告され、承認されました。

平成27年度の新役員が選出され、平成27年度の活動方針について、会長より、①準会員に対して同窓会行事への参加や学術集会参加費助成への応募などを呼びかけ、準会員と同窓会とのつながりを強化する、②看護学部・看護学研究科と合同で40周年記念事業を開催し、これを通じて期を超えた同窓生どうしの交流をはかることが提案され、承認されました。また、総務委員会から学部生（準会員）に対して学術集会参加費を引き続き１人5,000円を限度に年間40名まで行うこと、たより委員会から名簿購入案内には４年毎の発行であることや次回名簿発行年（平成28年度）を明示すること、広報渉外委員会から今年度は看護学部創立40周年記念集会を行うため、同窓会企画は実施せず、記念集会に協力する予定であること、名簿委員会から個人票の回収に力を入れていくことが説明され、承認されました。また、会長より、千葉大学大学院看護学研究科が開催大学となる第19回EAFONS（東アジア看護学研究者フォーラム：平成28年３月14 ～ 15日開催）への10万円の寄付と、同窓会会員数が増員し、今後、同窓会活動を次世代に引き継いでいくことを考え、副会長を２名より３名へ増員することが提案され、承認されました。平成27年度の活動予定に対して、平成27年度予算案が審議され、承認されました。

石丸40周年記念事業委員長より、平成27年９月13日（日）に開催する看護学部創立40周年記念事業（記念集会及び記念誌の発行）の進捗状況が説明されました。

資料１

平成27年度　決算報告

※1 予算との比較(計算式)収入『決算ー予算』、支出『予算ー決算』、△表記⇒マイナス、無印⇒プラス

正会員の収支

項　目		予　算	決　算	予算との比較※1
収入の部	計	6,968,453	7,542,048	573,595
1．会費	計	1,164,000	1,152,000	△12,000
27年度新人会員終身会費（12,000円×96名） （内訳　11N卒業生　90名　修了生６名）				
2．広報・渉外委員会	計	20,000	0	△20,000
記念誌代		20,000	0	△20,000
3．名簿委員会	計	30,000	12,000	△18,000
名簿代振込（3,000円×４冊分）		30,000	12,000	△18,000
4．利子	計	200	7,627	7,427
総合口座　107円		200	107	△93
定額貯金口座　7,520円		0	7,520	7,520
5．寄付	計		616,168	616,168
40周年記念事業より寄付　616,168円			616,168	616,168
6．繰越金	計	5,754,253	5,754,253	0

項　目		予　算	決　算	予算との比較※1
支出の部	計	6,968,453	7,542,048	△573,595
1．理事会	計	532,000	210,068	321,932
１）会議費		5,000	0	5,000
２）交際費 内訳：弔慰金 0円、亥鼻祭への寄付 50,000円 同窓会員と準会員との交流活動援助 0円 亥鼻キャンパス留学生交流会への寄付 50,000円 大学院オープンキャンパス運営補助 0円 第19回EAFONSへの寄付　100,000円		325,000	200,000	125,000
３）準会員への支援 学部学生への支援（２名助成）8,000円		200,000	8,000	192,000
４）雑費		2,000	2,068	△68
2．総務委員会	計	51,000	18,701	32,299
１）会議費（交通費・茶菓子）		21,000	2,005	18,995
２）郵送費（事務連絡通信費）		10,000	7,416	2,584
３）人件費（総会アルバイト１名分）		10,000	5,000	5,000
４）消耗品（託児用品等）		5,000	226	4,774
５）雑費（振込手数料、文具等）		5,000	4,054	946
3．名簿委員会	計	345,500	325,270	20,230
１）メンテナンス・データ処理		120,000	108,000	12,000
２）個人票関係費（督促ハガキ印刷発送費、個人票後納郵便代）		210,000	214,462	△4,462
３）謝金（個人票確認作業補助10時間分）		10,500	0	10,500
４）雑費（振込手数料、文具等）		5,000	2,808	2,192
4．たより委員会	計	701,000	716,284	△15,284
１）印刷費（たより印刷・発送費、チラシ封入代）		700,000	715,420	△15,420
２）雑費（振込手数料、文具等）		1,000	864	136
5．広報・渉外委員会	計	177,500	119,222	58,278
１）ホームページ更新費		45,000	14,850	30,150
２）会議費（茶菓子代）		13,000	0	13,000
３）渉外費 内訳：校友会費　50,000円　　卒業式記念品バラ　42,984円		105,000	92,984	12,016
４）人件費（卒業式記念品準備作業代）		10,500	0	10,500
５）雑費		4,000	11,388	△7,388
6．予備費	計	5,161,453	6,152,503	△991,050

平成27年度　千葉大学看護学部・看護学研究科同窓会の会計監査を実施した結果、収支共に正当であることを認めます。

平成28年4月7日
監査　和住淑子
小川純子

資料２

平成28年度　予算案

収入の部	計	8,532,003
1．会費	計	1,344,000
１）新入会員会費（12,000×112名） 内訳）　学部生95名、修了生17名		1,344,000
2．広報・渉外委員会	計	15,000
１）40周年記念誌代 内訳）　学生（院生含）500円×10冊 学生以外　1,000円×10冊		15,000
3．名簿委員会	計	1,020,000
１）名簿購入見込（3,000円×340名）		1,020,000
4．利子	計	500
5．繰越金	計	6,152,503

支出の部	計	8,532,003
1．理事会	計	484,000
１）会議費		5,000
２）交際費 <内訳> 校友会費：50,000円 弔慰金：50,000円 亥鼻祭への寄付：50,000円 同窓会員と準会員との交流活動援助：40,000円 亥鼻キャンパス留学生交流会への寄付：50,000円 大学院オープンキャンパス運営補助：35,000円		275,000
３）準会員への支援 <内訳> 学部学生への学術集会参加費助成 （１件あたり5,000円×40名見込み）		200,000
４）通信費		1,000
５）雑費（振込み手数料等）		3,000
2．総務委員会	計	45,000
１）会議費（交通費・茶菓子代）		21,000
２）通信費（評議員会開催通知代等）		5,000
３）人件費（総会託児アルバイト謝金5,000円×２名分）		10,000
４）消耗品費（評議員連絡用封筒・紙代・託児用品代等）		7,000
５）雑費（振込み手数料等）		2,000
3．名簿委員会	計	1,145,500
１）名簿制作費（制作冊数400冊、初期投下代含）		760,000
２）メンテナンス・データ処理		135,000
３）個人票関係費（督促ハガキ印刷発送費、後納郵便代）		237,000
４）謝金（個人票確認作業補助10時間分）		10,500
５）雑費（振込み手数料等）		3,000
4．たより委員会	計	859,341
１）たより印刷発送費		858,341
２）雑費（振込み手数料等）		1,000
5．広報・渉外委員会	計	266,500
１）ホームページ更新費（5,000円/更新1回×９回分）		45,000
２）会議費		16,000
３）印刷費（同窓会企画周知用チラシ3,000部・三つ折代含）		55,000
４）渉外費 <内訳> 卒業式記念品（バラ 学部生100名・院生40名）55,000円 同窓会企画　謝金（5,000円×シンポジスト4名）20,000円 同窓会企画　交通費（県外より新幹線利用2名）24,000円 同窓会企画　交通費（県内より2名）6,000円 退官記念品（10,000円×2名）　20,000円		130,000
５）消耗品費（卒業記念品貼付用テプラテープ代　他）		3,000
６）人件費（卒業式記念品準備作業10時間分）		10,500
７）通信費（記念誌郵送代、シンポジスト事務連絡代等）		3,000
８）雑費（振込み手数料等）		4,000
6．予備費	計	5,731,662

☞ **Curio（キュリオ）千葉大学校友会SNSの入会方法**

1．http://www.chiba-u.ac.jp/sns/を開き、［入会案内はこちらから］をクリックし、『「Curio」入会申込書（正会員用）』より、入会申込書の書式をダウンロードする。
2．入会申込書に必要事項を記載し、本人であることを確認できる書類（運転免許証、健康保険証など）のコピーとともに、校友会事務局まで郵送かFAXで送る。
<送付先> 〒263-8522 千葉市稲毛区弥生町 1-33　FAX 043-284-2550　千葉大学校友会事務局
3．校友会事務局で正会員の資格を持っていることを確認したうえで、「Curio」への登録を行う。
4．登録が完了したら、メールで連絡をする。

平成28年度　同窓会総会のご案内

新緑の候、会員の皆様にはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。会員の皆様のご意見を反映できるよう、多くの方々のご参加、ご意見をお待ちしております。お気軽にお越しください。

日時　**平成28年6月25日**（土）
15時30分～

会場　看護学部　第一講義室（2階）
千葉市中央区亥鼻１－８－１
＊場所は中庭側の校舎入口に掲示します。

内容　平成27年度事業報告、決算報告、平成28年度役員選出、活動方針、予算案、その他
＊同日総会に先立ち、同窓会企画があります（同封の案内参照）。

＊総会出欠に関しまして、同封のはがきにご記入の上、ご返送ください。

＜総会開催中の託児について＞
総会および評議員会開催時間中（12：30 ～ 17：30）、アルバイト学生（看護学部生）による託児を行う予定です。ご希望の方は、同封のはがきに必要事項をご記入の上、ご返送ください。当日のお申込みはできません。料金は無料ですが、申し込み後にご都合が悪くなられた場合は、前々日の6月23日（木）までに下記の係までご連絡ください。なお、同日のおやつやお気に入りの玩具等があればお持ちください。

係：渡邉（20期）
連絡先：watanabemiwa@faculty.chiba-u.jp

平成28年度　総会議案

同窓会は、正会員に38期卒業生を迎えました。今後ますます同窓会活動が活性化するよう、平成28年度の活動方針は、①準会員が同窓会事業に参加する機会を増加させることによって、同窓会とのつながりを強化する。特に今年度は平成25年度より実施している準会員（学部生）に対する学術集会参加費助成への応募者の増加を目指す、②名簿発行年にあたることから、会員からの個人票の返送を促し、会員のデータを最新のものに更新する、③会員の声が同窓会活動に反映されるよう、評議員会、総会の出席を促す、の３つを提案します。

平成27年度決算報告書は資料1に、平成28年度予算案は資料２に示します。また、新役員・評議委員案を資料３、新委員会案を資料４に示しました。評議員会から継続して会長として岡田忍氏、副会長に眞嶋朋子氏、大月恵理子氏、石橋みゆき氏を推薦します。

資料３　平成28年度　千葉大学看護学部・看護学研究科同窓会　新役員・評議委員案

（　）は卒業期

会　長　岡田　忍（３）
副会長　眞嶋　朋子（５）
大月恵理子（６）
石橋みゆき（14）
監　事　和住　淑子（10）
小川　純子（15）
会　計　金丸　友（18）
岩瀬　靖子（21）
戸田由利亜（32）

評議員
１期　伊藤　隆子
２期　田中　裕二　中村　伸枝
３期　岡田　忍
４期　島田　尚江
５期　酒井　郁子　本田　彰子
眞嶋　朋子
６期　児玉三枝子　遠藤　忠子
７期　亀崎　路子
８期　湯浅美千代　山倉　美典
９期　荻野　雅
10期　錢　淑君
11期　杉田由加里　坂上　明子
12期　末永　香　島田　広実
河部　房子　石丸　美奈
13期　荒屋敷亮子　末永　由理
14期　山本　育子　石橋みゆき
斉藤しのぶ
15期　大塚　千春　前原　邦江
16期　新井　典子　飯島　久美
17期　北島　美奈　松林　美子
18期　神津　三佳　藤沢　陽子
永田亜希子
19期　藤本　紀子　齊藤　千晶
20期　長瀬明日香　渡邉　美和
21期　菅谷　綾子　時田　礼子
22期　山下　亮子　高橋　良幸
23期　榊原理恵子　長谷川智子
24期　山田たづさ　秋山　愛
村山　陽子　小川　俊子
25期　伊藤　明子　守屋　奈生
松本美佐子
26期　鈴木　和也　内海加奈子
島村　敦子
27期　国原　健史　鉄矢　朋子
28期　鈴木さと美　宮川　祐子
鈴木　悟子
29期　松岡　大樹　太田　愛
太田　潤
30期　馬場　彩子　渡邉　賢治
31期　屋久　祐介　吉田　真美
32期　戸田由利亜　橋内　伸介
33期　伊藤真理子　小笠原麻華
阿部由喜湖
34期　上平　美和　能川　琴子
後藤　靖江
35期　荻野穂奈美　霜村　菜奈
田中　貴大
36期　川島　悠佳　藤島　佳奈
37期　工藤ひかり　田近　祐子
38期　富田　千尋　矢﨑　萌子
修了生　服部　智子

資料４　平成28年度　千葉大学看護学部・研究科同窓会　新委員会案

（　）は卒業期

総務委員会	委員長	渡邉　美和（20）
	副委員長	阿部由喜湖（33）
	委　員	坂上　明子（11）　太田　愛（29）
名簿委員会	委員長	野崎　章子（11）
	副委員長	小川　俊子（24）
	委　員	中村　伸枝（２）　斉藤しのぶ（14） 仲井　あや（修）　雨宮　歩（26）
たより委員会	委員長	永田亜希子（18）
	副委員長	河部　房子（12）
	委　員	黒田久美子（10）　松林　美子（17） 鈴木さと美（28）　太田　潤（29） 金井　友佳（29）　後藤　靖江（34）

広報・渉外委員会	委員長	時田　礼子（21）
	副委員長	鈴木　悟子（28）
	委　員	石丸　美奈（12）　神津　三佳（18） 山下　亮子（22）　渡邉　賢治（30） 橋内　伸介（32）　小村　文乃（33） 能川　琴子（34）　田中　貴大（35）

学術集会参加報告

平成25年度より、学部生の準会員に対して年１回5,000円を限度に学術集会の参加費を助成しています。平成28年度も助成を継続し、多くの学部生が学術集会に参加できるよう広報に力を入れていく予定です。

【学術集会参加報告】

３年次生　一村　悠

参加学会：第11回ICMアジア太平洋地域会議・助産学術集会　　場所：パシフィコ横浜

今回の学会ではインフォメーション・エクスチェンジと特別講演を１つずつ聴講した。インフォメーション・エクスチェンジ「女性に寄り添う助産教育」では、女性中心のケアとは、という話題を中心に文化人類学者・助産師・看護師・看護系教諭等の意見交換を聴講した。一般に助産院での出産を選んだ妊産婦の出産経験は満足度が高いといわれるが、その反面で異常があった時の医療処置ができない等のリスクもある。こうした状況で出産経験がより女性に寄り添った満足度の高いものとなるためには、看護職としての調査・情報開示能力を発揮し、より早い段階で産科医療に関する情報提供を行い、より多くの選択肢から妊産婦が望む出産体系を選び、看護職がその選択を支えることが必要であると学んだ。特別講演では、これからの日本で子どもを産むときに頼りになるものは知識、助けてくれる人と出会う力の２つであるとして、中高生が受ける性教育では産まない知識（避妊方法）が先行し、産む知識については知らされる機会が少ないことで高齢出産が増加しているのではないか、ということと、そうした出産の場で活躍する医療職についての説明があった。情報に溢れている現在だからこそ、正しい情報を提供し妊産婦やその家族の選択を促し、安全にその希望を叶えられるよう支援することが女性の主体的出産のために看護職としてできることなのだと感じた。

2015年度　亥鼻祭のご報告

2015年度亥鼻祭実行委員会委員長　医学部４年　梅田　開

2015年10月31日（土）、11月1日（日）の二日間に渡りまして第13回の亥鼻祭を無事開催し実施できたことをご報告いたします。今年度は両日とも晴天に恵まれ来場者は去年よりも多く約3,000名の方々にご来場頂きました。

今年度の亥鼻祭のテーマは「Beyond…」といたしまして、今までの12回の亥鼻祭をあらゆる意味で超えられ、かつ作り手となる生徒自身も成長できるように、といった意味を込めました。

当日の様子についてですが、記念講堂でのステージ上での演奏やダンスサークルによる出し物、各部活ごとの出店テントで賑わっておりました。また看護棟内では様々な企画が催され、身体ふしぎ発見という企画では超音波検査を実際に使った実演や生の動物の臓器を使った循環器系の説明などを行い生の医療現場を来場の皆様に親しんでもらえたかと思います。看護ノススメ企画では看護学部の学生が日頃の勉強の成果をまとめ来場者の方々に看護の現場について解説しておりました。来場者の方からも意見や日頃の感謝を伝える場所として盛況したと考えております。薬学部棟では、毎年行われている卒業生の方々による若手医療職の生の話を聞けるブースや、応急救護体験ブースが開かれておりました。

昨年度からの変化としましては、今年度からごみ箱を一新し、看護棟内の見回り時間を増やしたことで清潔さを例年以上に保てたと思います。また、来場者の方への良かった点や改善してほしい点をあげて頂くアンケートを実施したことで、より今後の亥鼻祭を良いものにしていけるでしょう。

個人個人が企画や委員会で存分に個人の力を発揮し、結果として亥鼻キャンパス全体で一つのものを作り上げる、そのような大学祭が開催されることはとても有意義なことだと思います。応援してくださった同窓会の皆様にこの場を借りてお礼申し上げます。

学生が地域の方や後援会、同窓会の皆様とふれあい、私たちが力を合わせ一つの大きなものを作り上げていることをお見せできる、そんな亥鼻祭に今後もご来場頂ければ幸いです。

千葉大学看護学部創立40周年記念事業への寄付のお礼とご報告

千葉大学看護学部・看護学研究科同窓会　会長　岡田忍
千葉大学看護学部40周年記念事業 企画委員
委員長・副委員長　石丸美奈・石橋みゆき

千葉大学看護学部・看護学研究科の同窓生の皆様より、約65万円のご寄付を頂戴し、創立40周年記念集会の開催ならびに40周年記念誌を発行することができました。

看護学部創設40周年の節目に同窓生の皆様の温かいご支援をいただき、無事に記念事業を行えましたことを報告しますとともに、お礼を申し上げます。

40周年記念誌は、1,000部印刷し、希望者への販売ならびに卒業生、在校生への記念品として贈呈いたしました。

創立40周年記念集会は、2015年９月13日（日）、看護学部・看護学研究科同窓会の主催により、「進化し続けるフロントランナー―看護学の未来を創る―」をメインテーマとし、開催されました。

シンポジウムでは、６期の大月恵理子氏（埼玉県立大学保健医療福祉学部看護学科　教授）の司会のもと「未来のキャリアパスを拓く」と題し、実践者、研究者、教育者として活躍する以下の５名の同窓生がそれぞれの卒業後のキャリアを披露しました。

1．奥　朋子氏（12期）：臨床看護実践を究める
　千葉大学医学部附属病院看護部　看護師長　がん看護専門看護師
2．吉永　尚紀氏（29期）：研究者としての道を歩む
　宮崎大学テニュアトラック推進機構（看護学系）講師
3．山元　ひろみ氏（20期）：企業において看護学を活かす
　ユニ・チャーム株式会社　グローバルマーケティング本部ヘルスケアグループ
　アシスタントブランドマネージャー
4．石橋　みゆき氏（14期）：省庁等において政策に携わる
　千葉大学大学院看護学研究科　准教授（前文部科学省 看護教育専門官）
5．荒木　暁子氏（10期）：看護管理者として次世代を育成する
　千葉県千葉リハビリテーションセンター看護局　看護局長

記念集会後は、新しくなった同窓会館にてお世話になった先生方とシンポジストの皆様を囲んで、懇親会が開催されました。看護学部の懐かしい話、これからの看護学部への期待等々話が途切れることなく、盛会のうちに幕を閉じました。

会場には、同窓生はもちろんのこと、お世話になった先生方をはじめ、ボランティアとして在校生も集い、設立40年を迎えた看護学部の今とこれからを考える好機となりました。

第19回東アジア看護学研究者フォーラム（EAFONS）を幕張メッセで開催

―たくさんのご支援ありがとうございました―

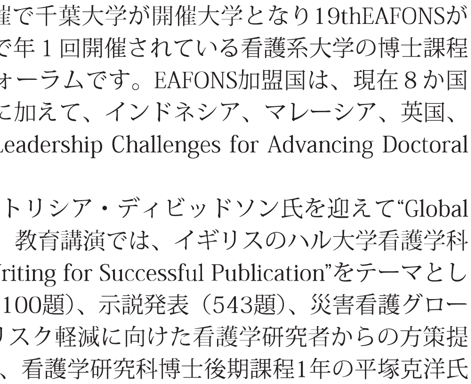
千葉大学19thEAFONS開催委員会事務局一同

去る2016年３月14日（月）15日（火）一般社団法人日本看護系大学協議会の主催で千葉大学が開催大学となり19thEAFONSが幕張メッセ国際会議場にて開催されました。本フォーラムは、1997年から東アジアで年１回開催されている看護系大学の博士課程の大学院生及び修了生、大学院教育に携わる教育・研究者を対象とする国際研究フォーラムです。EAFONS加盟国は、現在８か国（香港、タイ、韓国、フィリピン、台湾、シンガポール、日本）ですが、今回はそれに加えて、インドネシア、マレーシア、英国、米国、中国からも参加者を得て、計12か国より1,002名が参加し、メインテーマ “Leadership Challenges for Advancing Doctoral Education in Nursing” のもと各セッションが行われました。

基調講演は、アメリカ合衆国のジョンズ・ホプキンス大学の看護学部長であるパトリシア・ディビッドソン氏を迎えて“Global Trends in Research-Focused Doctoral Degrees：Disruptive Innovation”と題し行われ、教育講演では、イギリスのハル大学看護学科長であり、the Journal of Advanced Nursingの編集長であるマーク・ヘイター氏が“Writing for Successful Publication”をテーマとして講演が行われました。また、このほか、プレナリーセッション（2題）、口演発表（100題）、示説発表（543題）、災害看護グローバルリーダー養成プログラム在籍の大学院生が主催した2015年から2030年の災害リスク軽減に向けた看護学研究者からの方策提案 “Sendai Framework” に関するセミナー等多様なプログラムが行われ、閉会式では、看護学研究科博士後期課程1年の平塚克洋氏がポスターアワード（金賞）を受賞し、盛会のうちに幕を閉じました。

19thEAFONSを千葉・幕張で開催するにあたり、同窓生の皆様ならびにご退官・ご異動された先生方から、総額37万５千円の寄付を頂戴しました。また、同窓生をはじめとする現教職員と在校生約180名が実行委員やボランティアとして一致団結し、事前準備から当日の運営もスムーズに行えました。千葉大学看護学部・看護学研究科の同窓生の皆様の協力と、先生方の温かいご支援により、19thEAFONSを開催できましたことをご報告するとともに、同窓会を通じて多くのご支援をいただきましたことに改めて御礼申し上げます。なお、ご寄付いただきました方々のお名前をプログラム集に掲載いたしました（希望者のみ）。

次回EAFONSは2017年３月９日～10日、香港理工大学が開催予定です。今後ますます発展する東アジアの看護学研究について討議できる場として、EAFONSの果たす役割はより一層重要となります。千葉大学大学院看護学研究科・千葉大学看護学部は、これからも看護学の発展に向けて国際的な活動にも取り組んで参ります。同窓生の皆様には引き続きご支援ならびにご協力をお願いいたします。



講演するディビッドソン氏

特集　国際プログラムに入学して

大学院看護学研究科国際プログラム（Graduate School of Nursing International Program for Nursing Science）は、博士前期課程で学びたいと考えている外国人学生のために、更なる研究基盤を提供するために設置されました。2012年に第１期生の方が入学し、現在、３名の方が在籍しています。第１期生、２期生の方は、後期課程に進学されています。今回、在籍している3名の方と、10月に入学予定の方１名から、国際プログラムに入学した目的、日本で学ぶ体験についてメッセージをいただきましたので、ご紹介します。

Uki Noviana（ウキ　ノヴィアナ）さん　博士後期課程2年

Uki Noviana, BN, MNSc.
Doctoral Student at School of Nursing, Chiba University
A faculty member at School of Nursing, Gadjah Mada University

It is my great pleasure to study at Chiba University's School of Nursing, one of Japan's famous nursing schools. Chiba University has a good reputation and a strong foundation of nursing knowledge and innovation that bridges theory and practice.

I am from Indonesia, which has a similar culture and natural conditions as Asia, with several types of natural disasters, such as tsunamis, earthquakes, and volcanic eruptions, which first got me interested in nursing in disaster situations. The school of nursing at Chiba University provides me a strong foundation to develop support for disaster survivors by implementing my nursing knowledge in practice.

I greatly appreciate the hospitality of Japanese people; I have received a lot of support from faculty members and friends. My fellow Japanese students supported me so I could enjoy living and studying in Japan. While studying in Japan, I also learned discipline, punctuality, respect for others, etc., important lessons apart from academic knowledge that are needed for transformation into change agents for our future careers.

One of many other things that impressed me is the Japanese people's great respect for their traditional culture. I really enjoy Japanese culture, matsuri, and other traditional events.

Alumni of the School of Nursing, Chiba University produce a lot of excellent research with a strong nursing foundation to bridge theory and practice. Therefore, publication in English is necessary to present unique and innovative ideas to be discussed and exchanged with other nurses around the world.

Khudazi Aulawi（クダジ　アーウィ）さん　博士後期課程1年

I entered Graduate School of Nursing Chiba University in October 2013 and graduated in September 2015. Now I am a doctoral student at Chiba University. During my study at Graduate School of Nursing Chiba University, I have learned a lot of lessons, both from academic courses and from my live experiences in Japan. Regarding the nursing subjects, I thought that the most difficult part in studying nursing was understanding nursing theory deeply, when I took course about nursing theory in School of Nursing Chiba University, I was enlightened to understand the nursing theory deeply and comprehensively.
Currently I am studying in advanced nursing practice, nursing pathobiology. Many new things I have learned, especially the importance of knowledge, research, and application of infection control for nursing profession. One aspect of our study is about microbiology, which is still regarded as less important aspects in nursing profession. In addition, I feel that Graduate School of Nursing Chiba University has very conducive atmospheres, both education (e.g. facilities, faculty members) and non-education (e.g. staff members) atmospheres.
From my living experiences in Japan, I learned a lot of about Japanese people' attitude, such as discipline, cleanliness, honesty, and respect for each other.
At the close, I would like to take this opportunity to express my sincere gratitude for everything I have learned. I hope that the knowledge can be useful. God bless Graduate School of Nursing Chiba University.

Shreejana Maharjan（シュリザナ　マハルジャン）さん　博士前期課程2年

My name is Shreejana Maharjan and I am from Kathmandu, Nepal. Kathmandu is very famous for world heritages, variety of ethnicity, culture, languages and festivals. I am studying Master's degree in psychiatric nursing at Chiba University Graduate School of Nursing, Japan. The main purpose of my study is to pursue an advanced degree in nursing and help people with mental illness and their families in Nepal.

It was challenging for me to live in Japan for the first few months. I have never stayed away from my family and home town. Along with time and support from professors and friends, I am enjoying my life in Japan. Moreover, Japan is very safe country and people are very kind and courteous so now I am not scared to travel alone. I explore new experiences which I will cherish forever in my life.

Living in Japan is very expensive compared to Nepal. I am grateful to Chiba University which provides financial support to international students for their living allowance. I learn basic Japanese language for three months which supports my daily life in Japan. As part of the program, I have an opportunity to visit hospitals and community settings and learn about nursing in Japan. I get an opportunity to learn from the professors who are expert in their field. All professors are very kind and caring like parents. I am overwhelmed with an emotional support from my supervisor whenever I miss my family. She also encourages me to attend important seminars and participate in international conference. It is an amazing experience to study and live in Japan. I have a meaningful learning experience, develop my knowledge and research ability. I am looking forward to continue my doctoral degree and I am very proud to be a student of Chiba University.

Amos Nyamadzawo（アモス　ニャマダウォ）さん　10月に博士前期課程に入学予定

The past twelve months have flown by for me. Enrolling with Chiba University Graduate School of Nursing has enhanced my perspective of nursing and its global potential.

Being curious to figure out how I could perform in a different environment, culture and language, I decided that Japan was the best place to discover my abilities. While looking at the graduate school`s website I discovered something I`d never known before, Frontier Nursing. Its novelty and flexibility to cater for foreign students attracted me. The department's Pathobiology specialization option offered opportunities to focus into detailed scientific aspects of nursing, in which I have a keen interest. From then I knew this was the program for me.

Orientation into my research lab was the most pleasantly surprising experience. I was impressed with how well prepared, devoted, independent and focused the program's research department is, and I am very proud to be part of the institution. Working with students from Asia, Europe and America have added to the experience. Everyone around me (professors and colleagues) has been so helpful and made studying in Japan a wonderful experience.

日本語でもメッセージをくださいました！

私が卒業生に送りたいメッセージは、千葉大学大学院看護学研究科の国際課程はとても役に立つプログラムだということです。千葉大学大学院看護学研究科の学ぶ環境は、どんな人でも能力を伸ばせるので、日本で留学したい人には、千葉大学大学院の看護国際課程が私のお勧めです。

40周年記念誌を1冊1,250円（送料込）で販売しています。

第６代から13代の看護学部長の方々、諸先生方や学生のメッセージから、看護学部創立30周年以降の亥鼻キャンパスの変化等が盛り込まれた、全68ページフルカラーでお送りする一冊です。

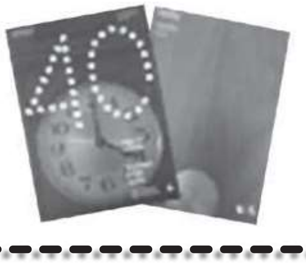
購入を希望される方は、メールで kango-40th@chiba-u.jp にお申込みください。

お申込み時には、以下の項目についてご記入ください。

1．名前及びふりがな
2．（できれば）卒業期
3．必要冊数
4．送付先住所
5．連絡先メールアドレス
6．振込金額
7．振込日もしくは振込予定日

お申込み後、1か月以内に記念誌代を下記にお振込ください。ご入金確認後に、発送させていただきます。

※40周年記念ホームページとは振込先が変わっていますので、お気を付けください。



＜振込先＞
銀行名：ゆうちょ銀行
記号：10590
番号：23043391
名前：千葉大学看護学部同窓会

個人票返送と記入のお願い

今年は名簿の作成年です！必ずご返信ください。
あなたのデータが千葉大学看護学部・看護学研究科の実績と未来を創ります！

個人票は<u>すべての会員の方</u>が返送してください。

個人票は、同窓会からのあらゆる連絡（たよりの発行、名簿の発送など）のための住所のもととなります。さらに、皆さまから返送された個人票の情報を元に、看護学部卒業生の現在の就業状況を統計的に把握し、「千葉大学看護学部要覧」に掲載しています。これは、**看護学部卒業生の現在の活動状況を知る重要かつ唯一の資料**となっております。**住所変更をしていなくても、**個人票の返送による会員データ管理は、**毎年継続しておりますので必ず返送**してくださるようお願い申し上げます。なお、今年３月に卒業された方々も、住所に変更がなくても必ずご返送ください。

<u>今年は11月末に名簿を発行する予定です。必ず個人票をご返送くださいますよう重ねてお願い申し上げます。</u>

皆さまご多用のところとは存じますが、何卒ご理解・ご協力を賜りますようお願いいたします。

ご注意ください。

同窓会では、皆さまから集めた個人情報は厳重に保管し、また名簿も信頼のおける業者に作成を依頼しており、こちらから個人情報が流出することは一切ありません。皆さまのお手元にある名簿の管理については充分にご注意いただきますようお願いいたします。古くなった名簿を破棄する場合には裁断（シュレッダー）するなどしてデータが万が一にも流出しないよう管理の徹底をお願いいたします。

個人票記入の手引き

☆ ご自分の個人票データについて、変更・訂正のある場合は、変更・訂正事項記入欄に修正内容をご記入ください。変更・訂正をご記入された方は、同封の個人情報保護シールを上に貼って、情報をカバーし、ご返送ください。
☆ 勤務形態、設置主体、職種、職位は下記のコード表（コード表は、個人票の左側にもあります）から番号を選択し数字を記入してください。該当するものがない場合には、具体的に記してください。
☆ 現住所で連絡が取れないときのために、帰省先の住所をお尋ねしております。
☆ 勤務状況については、現在就業している方は「有」に、就業していない方は「無」に○をつけてください。
☆ 現在学生の方は最終学歴の「学校名」の欄に学校名を記し、(在学中)とお書きください。勤務を続けたまま学生をされている方(科目等履修も含む)は、勤務状況と学校名の両方のご記入をお願いいたします。
☆ 近況報告について、ご記入いただいてもたよりへの掲載を希望されない方は、右のチェック欄にチェックしてください。
☆ 名簿に連絡先の掲載を希望しない場合は、該当する訂正欄に「不掲載」とご記入ください。

［　コ　ー　ド　表　］

<u>勤務形態：</u>１．正職員　２．臨時職員（非常勤、パートタイマーなど）　３．休暇・休業中
<u>設置主体：</u>１．国立大学法人　２．都道府県　３．市町村　４．公益団体　５．学校法人　６．医療法人　７．個人　８．会社
<u>職　　種：</u>１．看護師　２．保健師　３．助産師　４．養護教諭　５．看護教育職　６．研究職　７．一般職（看護職以外）
<u>職　　位：</u>１．非管理職：一般看護職員、一般専任教員、助手など　２．中間管理職：主任、市町村等の係長、准教授、講師、助教など　３．管理職：師長、教務主任、市町村等の課長、教授など　４．看護部長、副看護部長、学部長、研究科長など

個人票返送の締め切り　**平成28年６月中旬**までに返送してください。

名簿購入のご案内

「平成28年度会員名簿」の購入をご希望の方は、下記の通り申し込んでください。

予約申し込みの場合

同封の振込用紙に必要事項を記入の上、郵便振替にてご入金ください。名簿完成後、登録のご住所に送付いたします。予約は９月末までにお振り込みください。

予約申し込みを忘れ、名簿発行後購入希望の場合

１．名簿購入希望について、同窓会名簿委員長に申し込む。連絡先：043-226-2452（看護学部学務係）
　その際、同窓会会員であることがわかるよう、氏名、学籍番号をご連絡ください。もしくは、直接千葉大学看護学部同窓会までお出でください。
２．<u>同窓会会員であることが確認できた後</u>、購入手続きをとらせていただきます。
３．名簿の代金について
　名簿は１冊**<u>３，０００円</u>**です。　**代金の入金を確認後、**発送いたします。
４．せっかく代金を振り込まれても、以下の場合は<u>寄附金として処理</u>されますので、ご注意ください。
　複数冊の名簿代を振り込まれた場合；名簿の購入は<u>お一人一冊</u>に限られています。

平成28年度　千葉大学大学院看護学研究科　教員紹介

専攻	講座	教育研究分野	専門領域	教授	准教授	講師	助教・助手	特任等
看護学	先端実践看護学	高度実践看護学	看護病態学	岡田　忍		小川　俊子		（技術専門職員） 西尾　淳子
			小児看護学	中村　伸枝	佐藤　奈保		仲井　あや 金丸　友	
			成人看護学	眞嶋　朋子	増島麻里子		渡邉　美和 楠　潤子	
		高齢社会実践看護学	老人看護学	正木　治恵	石橋みゆき		高橋　良幸 戸田由利亜	（特任准教授）山下　裕紀 （特任研究員）坂本　明子、林　弥江
	生活創成看護学	健康増進看護学	生体看護学	小宮山政敏	田中　裕二		雨宮　歩	
			リプロダクティブヘルス看護学	森　恵美	坂上　明子		小澤　治美 青木　恭子 小坂　麻衣	（特任准教授）前原　邦江、岩田　裕子 （特任研究員）三國　和美
			健康管理看護学	北池　正	池崎　澄江			
		地域創成看護学	精神看護学			野﨑　章子	舘　祥平	
			地域看護学	宮﨑美砂子	石丸　美奈		飯野　理恵 鈴木　悟子	
			訪問看護学	諏訪さゆり	辻村真由子		能川　琴子	
	文化創成看護学	文化看護学	理論看護学	山本　利江		永田亜希子	阿部由喜湖	
		専門職育成学	看護教育学	舟島なをみ	中山登志子			（技術職員）杉本　史織、★小川　和代 （技術補佐員）望月美知代
		看護政策・管理学	看護管理学	（吉本　照子） （酒井　郁子） （和住　淑子）				
共同災害看護学	災害看護学	災害看護学		岩﨑　弥生	（特　任）伊藤　尚子 （特　任）望月　由紀			（技術補佐員） 新村　佑子
看護システム管理学	看護システム管理学	病院看護システム管理学		手島　恵		飯田貴映子		
		地域看護システム管理学		吉本　照子	杉田由加里			
		ケア施設看護システム管理学		酒井　郁子			黒河内仙奈	（特任研究員） 松平　裕佳
附属看護実践研究指導センター		ケア開発研究部		野地　有子	黒田久美子	赤沼　智子		（特任研究員） 炭谷　大輔
		政策・教育開発研究部		和住　淑子	錢　淑君	今村恵美子		
附属専門職連携教育研究センター					（特　任） 井出　成美	（特　任） 藤沼　康樹	（特　任） 臼井いづみ ■馬場由美子	（特任研究員） 山田　響子

外部資金等講座	特任教授	特任准教授	特任講師	特任助教	特任研究員／事務補
がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン		長坂　育代			
認定看護師教育課程（乳がん看護分野）		阿部　恭子		井関　千裕	
看護学教育ＣＱＩモデル開発と活用推進		吉田　澄恵			

＊　下線…正会員　★…産休・育休中　■…特命助手　（　）の名前…兼任者

平成28年度　千葉大学大学院看護学研究科　説明会

●博士前期・後期課程（看護学専攻）●５年一貫性博士課程（共同災害看護学専攻）●修士課程（看護システム管理学専攻）

日　時：**平成28年５月28日（土）**
集合時間 12：50　開催時間 13：00
場　所：千葉大学看護学部　講義・実習室
内　容：⑴ 看護学研究科の概要と特色
⑵ 各専門領域等教授紹介
⑶ カリキュラムの説明
⑷ 大学院生からのメッセージ
⑸ 専攻別質問コーナー　大学院生との交流

参加希望の方は千葉大学看護学部大学院担当宛申し込んでください。申し込み方法は次の事項を記載して、ハガキ、FAX、Eメール等でお送りください。平成28年５月20日（金）17：00で締め切ります。
お名前・ご住所・電話番号・Eメール・決定していれば志望教育研究分野（専門領域）を記載の上、大学院説明会参加希望と明記してください。

問い合わせ先
〒260-8672 千葉市中央区亥鼻1－8－1　看護学部大学院学務係
TEL 043-226-2450　FAX 043-226-2382
Eメール：tae5667@office.chiba-u.jp
千葉大学看護学部ホームページ：http://www.n.chiba-u.jp/

※千葉大学看護学部は亥鼻キャンパスにあります。
ＪＲ千葉駅又は京成千葉線の京成千葉駅下車、ＪＲ千葉駅東口⑦番バス乗り場から京成バスを利用約15分、「千葉大学医学部入口」下車徒歩１分